

家庭学習の手引き（高学年）

1 家庭学習の目標

主体的な学習の定着化

基礎学力の定着

自己マネジメント力の育成

2 家庭学習の3カ条

第1条 家庭学習は、自分の学び方を身に付け、自分から進んで取り組む学習です。

【主体的な学習の定着化】

第2条 家庭学習は、授業とつないだ学習ととらえ、学習の要点を整理し、まとめる学習です。

『宿題＋5分間復習＋自主学习＋1分間予習』を毎日継続します。 【基礎学力の定着】

授業 ⇒ 復習・予習 ⇒ 授業 ⇒ 復習・予習 ……

第3条 家庭学習は、学習の理解を自分で判断し、目標と計画を立てて取り組むサイクル学習です。

【自己マネジメント力の定着】

3 学習時間のめやす

高学年の家庭学習のめやすは、『学年×10＋10分』です。

【5年生が60分、6年生が70分】が目安！



4 5分間復習と1分間予習

5分間復習	1分間予習
1 今日学習したところの教科書のページを開きましょう。	1 教科書を開き、次時に学習するところを読みましょう。
2 学習したところの教科書を音読して内容をふり返りましょう。	2 新しい学習は何なのか、問いは何なのか、考えましょう。
3 学習の要点やまとめに線を引きながら、自分の考え方を見直し、まとめましょう。	3 大切なことばやまとめの文は、線を引きましょう。

5 家庭学習の取り組みについて

(1) 家庭学習のとらえ方について

家庭学習

=

宿題

+

5分間復習 + 自主学习

+

1分間予習

(2) 家庭学習の流れについて

- まず、「宿題」に取り組みましょう。
- 次に、「5分間復習」と「自主学习」に取り組みましょう。
- 最後に、「1分間予習」に取り組みましょう。



(3) 5分間復習と自主学习について

- 5分間復習と自主学习は、セットで考えます。
- 5分間復習では、教科書を開き、今日の授業の学習をふり返りながら、正しい知識と考え方を確かめます。
- 自主学习は、自主学习ノートを開き、教科書の問題、特に、自分がよくわからなかった問題にチャレンジし、学習の要点をまとめながら解いていきます。授業でやったときと考え方を比べて、自分のまちがいを直していくことが大切です。

復習の効果

授業で学習したことをふり返り、学習の要点を整理して、まとめることが大切です。

予習の効果

次の授業が分かりやすくなり、自分の考えをしっかりと持てることができます。

継続の効果

家庭学習の継続は、集中力を高めます。また、自分の力の伸びを感じることができます。

○月□日 教科書 △▽ページ

◆ 学習内容 「接続語のはたらき」

問い 接続語の使い方、文はどのように変わるだろうか

接続語とは、文と文、言葉と言葉をつなぐ働きをする言葉

接続語の種類

① 順接

Aの文 「だから」「それで」「ので」

《例文》 熱が三十八度もあった。だから、学校を休んだ。
熱が三十八度もあったので、学校を休んだ。

② 逆接

Aの文 「しかし」「けれども」「のに」

Bの文

《例文》 熱が三十八度もあった。しかし、学校に行った。
熱が三十八度もあったのに、学校に行った。

まとめ 接続語の使い方、文と文とのつながりが変わることがわかった。他の種類の接続語も調べてみたい。つなぐ言葉に注意して文章を読むことが大切だと思った。

<5年・算数科>

○月□日	めあて 「小数の文章問題は、どのように考えて式を立てればよいのだろうか。」	
	学習内容 (授業で取り上げた問題に再チャレンジする)	学習の気づき(自由に思考をメモする)
教科書 P. ■ 2	<p>《問題》 1mのねだんが80円のリボンを2.5m買いました。代金はいくらですか？ (授業のときに立てた式) $80円 \div 2.5m = 32円$ (教科書を見て、考え方を修正する。)</p> <p>※ 教科書や算数ノートを見て考え方を見直す。</p> <p>※ 教科書では数直線図をもとに式を考えていた</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>《数直線図から求めた式》 $80円 \times 2.5m = 200円$</p> <p>《まとめ》 文章問題は、数直線図をもとに何倍かを考えれば、正しく式を立てることができる。</p>	<p>○ 1mの代金が分かっているときの問題がむずかしかった。</p> <p>○ 2.5mの代金が1mの代金よりも安くなるのはおかしい。</p> <p>○ 数直線図を「横」に見ると、2.5倍の関係になっていることに気づいた。</p> <p>○ 数直線図で何倍の関係になっているかを考えると、式を立てることができた。</p> <p>○ 1mあたりの代金が分かっているときは、かけ算の式になることに気づいた。</p> <p>① 数直線を「たて」に見ても、何倍かの関係から式を立てることができそうだ。</p>

○月□日 教科書 △▽ページ

◆ 学習内容 「意見が対立したときは」

問 い 意見が対立したとき、自分ならどうすればいいのだろうか。

女子「私は、こっちがいいと思う。」
男子「そんなことはないよ。こっちのほうがずっといい。」

〈原因〉
○ 自分の思いだけを言い続けているから。

〈解決の考え方〉
○ たがいの意見をしっかりと聞き合う。
○ たがいの意見をしっかりと受け止める。
○ たがいの意見を大切にして、話を前に進める。

女子「私は、こっちがいいと思う。」
男子「どうしてそう思うの。」(理由をたずねる。)
女子「なぜかというと・・・だからだよ。」
男子「確かに、その考え方も分かる。」(受け止める)
男子「それなら、こうしたらどうかな？」(提案して次へ)

まとめ 意見が対立したときは、まず、理由をたずねる言葉を使うことが大切だと思った。

<5年・算数科>

○月□日	めあて 「小数のかけ算の筆算は、どのようにやればよいのだろうか。」	
	学習内容 (授業で取り上げた問題に再チャレンジする)	学習の気づき(自由に思考をメモする)
教科書 P. ■ 4	<p>《問題》 0.24×0.13 の筆算</p> <p>〈ミス〉</p> $\begin{array}{r} 0.24 \\ \times 0.13 \\ \hline 72 \\ 24 \\ \hline 3.12 \end{array}$ <p>〈原因〉 答えに小数点を打つとき、位に合わせて、そのまま小数点を落として打ったこと。</p> <p>(教科書を見て、考え方を修正する。)</p> <p>※ 教科書や算数ノートを見て考え方を見直す。</p> <p>※ 教科書では移動したけた数だけ積でもどした。</p> <p>〈正解〉 $0.24 \rightarrow$ 右へ2けた $\times 0.13 \rightarrow$ 右へ2けた</p> $\begin{array}{r} 0.24 \\ \times 0.13 \\ \hline 72 \\ 24 \\ \hline 0.0312 \end{array}$ <p>0.0312 ← 左へ4けた</p> <p>《まとめ》 小数点を移した分だけ積の小数点をもどせば、正しく計算できる。</p>	<p>○ 小数点が付いていると、筆算の仕方がむずかしい。</p> <p>○ 答えの小数点をどこに付けていいのかわからなかった。</p> <p>◆ 小数点が移動することの意味を整理すると 10倍は、右へ1けた移す。 100倍は、右へ2けた移す。</p> $\frac{1}{10}$ <p>10 は、左へ1けた移す。</p> $\frac{1}{100}$ <p>100 は、左へ2けた移す。</p> <p>○ 小数×小数は、整数×整数として見るために、かけられる数とかける数にそれぞれ100倍して小数点を移す。</p> <p>○ 積は、小数点を移した分だけもどせばいいことに気づいた。</p> <p>② 例えば、積の最後の位が0のときは、0を数えて小数点を打っていいのだろうか？</p>

